



中庭ミュージックタイム

昨日13日(火)の昼休み、合唱部が中庭(通称:むらさき広場)でミニコンサートを開いてくれました。本校は校舎が中庭を囲むような「ロ」の字の形をしていて、プレハブの4年生を除く学年から、中庭が一望できます。その特徴を生かして、一昨年「中庭ミュージックタイム」と称して、ミニコンサートが不定期開催されています。合唱部は、先日定期演奏会が行われましたが、全校の子供たちに向けて、歌を届けたいという思いで、ミニコンサートを開いてくれました。



コンサートでは、能登半島で被災された方々に歌をおくるために作られた楽曲「しあわせ運べるように」と、「にじ」が披露されました。中庭いっぱい、合唱部の子どもたちの美しい歌声が響き渡りました。歌っている子供たちは表情豊かに歌い、それを聴いている子供たちも自然と微笑み、曲を歌い終えるごとに、温かい拍手が送られていました。

合唱を終えて、合唱を聴いていた子供たちに質問すると「美しい歌声に感動した。」「みんなの前で堂々と歌えてかっこいい。」という声があがりました。また、たまたま来校していた外部のお客様も「素晴らしい歌声に感動して、聴いていると涙がでてきました。素敵な子供たちと素敵な先生たちの様子を見ることができて、幸せな気分になりました。」と感想をいただきました。帯西ブルーも中庭にたくさん現れ、今回の合唱も感動の渦に包まれた昼休みとなりました。合唱部の皆さん、ありがとうございました。

朝のボランティア活動

昨日は、広報美化委員会が呼び掛けてくれていた朝のボランティアの最終日でした。ボランティアの合図が放送で始まると、朝の7時45分から8時までの間、ボランティアに汗を流す1年生から6年生までの子供や先生たちが、運動場やムラサキ広場、裏庭などで一斉に自分にできることを見つけて、ボランティアに勤しんでくれました。帯西は、協働的な学校だと自負しています。それは常日頃から、子供たちが係・当番活動、委員会活動



などで、みんなのためにと活動している機会が多いからだと思います。誰かの役に立つという思いは、朝のボランティア活動からも醸成されているのです。この時間は決して強制ではありませんが、そこに集う子供たちの表情は実に生き生きとしています。袋一杯に草を入れてごみ置き場まで運んでいる子供たちは、「重い、重い。」と言いながら笑っていますし、植物のお世話をしている低学年は「こんなに大きくなったよ。」と息せき切って見せてくれます。このような、誰かのために役に立った経験が6年間の中でじっくりと心を育み、社会に出ても、誰かのために貢献できる一歩を踏み出すことができるのです。